

問に答ふ

□口繪原色版はワットマンハツ切より稍大なるもの、昨年三月國府津に於ての作に御座候

□中繪原色版は八インチ八分の三——十インチ六分の一の大いさにて、千八百九十二年の作に候

□次號の口繪は久し振にて石川欽一郎氏の臺北郊外を出すべく、中繪は未定に御座候

□『水彩肖像畫法』及『圖按法概要』『廣重傳等の續稿は次號に掲出可致候

□七月紀念號發行につき續々御賛成被下難有存候、最早豫定金額の半に達し申候、御頒ち致すべき畫料の全額は七月號に投じ候筈ゆへ、此際進んで御助力を仰き度候

□會友諸君のうち、批評を求めらるゝ作品の返送料未着の方あり、何卒毎回御送付下され度候

□全しく作品御送付の際は、包装は『桑田式』を望み申候、一個金十六錢の實費を以て本會にて御頒ち可申上候、

■一 木の蔭等の暗き處より透きて見ゆる空は他と同じ濃さにては結果面白からず、他よりも濃く畫いて差支なきや。二

雨天の道路の光りは畫くと雪の如く見え候如何にしてよきや。三 遠近の調子は

實際見ゆるよりも甚しく描き出して宜敷や、色にも遠近をちけて差支なきや（常陸の人）◎一 暗き處に明るき空は甚しく調子が強くなる故、通例他の空色よりも濃くするものなり、自然物は大にして

且微細なる調子を保つ故あまり目立たれど、一小紙面にては多少の工風が要るべし。二 水の光りの白きと雪の白

きとの區別さへ見破ればよきなり、水には光りてぬても建物や人物の色ある影が映ずべく、雪には日光によりて僅かに一

色の影を見るのみなり。三 稽古繪としては實際見ゆる通りに畫くべきものなれ

ど、其見ゆるといふことが、遠くにある木の葉一つ／＼といふ風ではない、また左

様にすると、前景のものは葉の中の繊緯

迄も畫かればならぬ、見ゆる通りといふのは、前景中景遠景すべて調子の合ふといふのが程度である、それ故、前のものを

細かく正しく強く描いたら、遠景とて相應に詳細に寫してもよく、前のものがさ

までなくは、遠景は色も調子も弱くするといふ風に、其寫すべき景色にもより、

また時間にもよる、スタデーの場合ならばよく遠景だからとて省略せず畫いた方がよし、要するに、先輩大家の作によつ

て、自から其程度を悟るべきで、故らに自分の考で、遠近を甚しくつけるはよくないと思ふ。■一 『みづゑ』五十七『晩

秋』に使用されし繪具の名及描法順序を詳しく知りたし。二 寫真版として挿入すべき水彩畫は、自分にて複寫せし寫真

印畫を送りてよきや(T, S生)◎一 手本にするために畫いたのでないから、順序

も色彩も其時の筆任せで一定してゐない、従つて説明の致やうもないが、若しこのやうな處を寫生するに、ドンナ順序でやつたらよいかとなれば、まづ形を取つてから、其時の空氣の色光線を見て畫